

目標と実績

2009年度は第5期環境行動計画(2007年～2009年)の最終年にあたり、掲げた目標を達成すべく、全社一丸となって活動を推進しました。

概要

掲げた5つの重点テーマおよび取り組み項目は、途中で社会情勢や達成状況を考慮しながら目標の上方修正を行ったものも含め、改善施策を積極的に展開した結果、すべての項目で達成しました。

とくに、①環境貢献・配慮ソリューションの提供、②物流・輸送CO₂の削減、③グリーンファクトリー／グリーンオフィス制度、④廃棄物発生量の削減、⑤環境社会貢献活動で、活性化が進み予想以上の成果となりました。

第6期環境行動計画(2010年～2012年)でも、さらなる維持向上を図ってまいります。

主な活動実績と今後の課題

●2009年度の主な活動実績

(1)重点活動

- 重点テーマ5つの目標達成実績
- ①製品・サービスの環境価値向上目標達成
(スーパーグリーン製品:9製品群の候補から5製品群を登録)(環境貢献・配慮ソリューション:目標比3倍以上を達成)
- ②地球温暖化防止対策
目標達成(物流・輸送のモーダルシフト拡大効果などでCO₂削減)(全社エコ2活動と連携したムダ取り推進にてCO₂削減)
- ③ガバナンスの強化
全部門で本来業務のEMP設定と質向上FKMの認証取得で海外グループへ拡大完了
- ④リスクマネジメントの強化
目標達成(お取引先との連携向上。環境測定の強化と対応の迅速化)

⑤環境社会貢献

目標達成(定期活動の定着。社内外関係部門との連携活動拡大)

(2)コンプライアンスの徹底

- 環境測定監視体制の強化
- ①年4回の環境測定による季節変動要因の把握・分析と監視体制の維持
- ②日常の自主測定監視徹底(新潟工場での浄化槽水質管理)
- ・2010年6月の公共下水道への完全移行に伴い、自主測定は終了しました。

(3)地球温暖化防止設備の展開

- ①電力省エネナビゲーションシステムによる分析と改善推進(新潟工場)
- ②日照調整フィルムを本社・東京工場にも設置
- ③省エネ型コンプレッサーへの切替え(本社・東京工場)

●今後の主な課題

(1)お客様・社会の環境負荷低減活動の強化

- 保有するグリーンICTに関する技術やノウハウを用い、今まで以上に環境負荷低減に貢献する
- ・製品・サービスの環境価値向上とグリーンICTの開発・提供強化

(2)自らの環境負荷低減活動の強化

- エネルギーの自己調達化／効率的運用
- ①ソーラーシステムの新規設置
- ②電力省エネナビゲーションシステムの効果的運用
- 省エネ法施行に伴う富士通フロンテックグループ全体の省エネ対策／監視体制の推進

(3)環境経営基盤の強化

- 環境コミュニケーションの推進

(4)生物多様性保全活動の推進

- クローズアップされてきた生物多様性問題に対し、企業の「CSR」の一つとして取り組み

■2009年度の目標と実績

富士通フロンテックグループ第5期環境行動計画(2007～2009年度)		目標と進捗状況		
重点テーマ	重点取り組み項目	2009年度目標	2009年度実績	総合評価
1 製品・サービスの環境価値向上	スーパーグリーン製品の拡大 新規開発したグリーン製品を対象に、環境トップ要素を持つスーパーグリーン製品を2009年度末までに50%以上とする	新規開発製品50%以上	新規開発製品56%	○
	環境効率ファクターの達成 新規開発したグリーン製品を対象に、2005年度製品と比較して環境効率ファクター「1.3」を2009年度末までに達成する	新規開発製品「1.3」達成	新規開発製品「1.42」	○
	環境ソリューションの拡大 2009年度末までに環境負荷低減を向上する環境貢献・配慮ソリューションを9件以上提供する	環境貢献・配慮ソリューション9件以上	環境貢献・配慮ソリューション10件(07～09の計画9件に対し累計28件)	○
2 地球温暖化対策	エネルギー消費CO ₂ 削減 既存ビジネスにおけるエネルギー消費CO ₂ 排出量を2010年度末までに1990年度実績比8%削減する	エネルギー消費CO ₂ 8%削減	エネルギー消費CO ₂ 13%削減(10年までの目標を前倒しで達成)	○
	物流・輸送CO ₂ 削減 物流・輸送CO ₂ 排出量を2010年度末までに2000年度実績比10%削減する	物流・輸送CO ₂ 排出量9%削減	物流・輸送CO ₂ 排出量35%削減(10年までの目標を前倒しで達成)	○
	グリーンファクトリー／グリーンオフィス制度 [®] の適用 環境活動の全体的なレベルアップを図り2009年度末までに達成レベル★★以上とする ※富士通グループ独自で規定する環境配慮レベルの総合的評価制度	達成レベル★★以上	グリーンファクトリー／グリーンオフィス共★★★確保	○
	VOC削減 VOC排出量を2009年度末までに2000年度実績比69%削減する	VOC排出量69%削減	VOC排出量72%削減	○
	廃棄物削減 廃棄物発生量を2009年度末までに2005年度実績比3%削減する	廃棄物発生量30%削減(有価物化拡大にて目標上方修正)	廃棄物発生量46%削減	○
3 ガバナンスの強化	本業パフォーマンス向上 EMSの質の向上により本来業務における環境活動を強化し、全部門にて本来業務の環境目的・目標を設定する	目標達成率100%	目標達成率100%	○
	グローバル統合EMS推進 EMSに基づく環境経営の枠組みを2009年度末までに海外グループ会社へ拡大する	FKMのISO14001認証取得支援	FKM認証取得(2009年5月)	○
4 リスクマネジメントの強化	グリーン調達活動 [®] の推進 お取引先のEMSレベルアップを推進し2009年度末までにレベルIIを100%にする ※富士通グループ独自で規定するグリーン調達基準	お取引先のEMSレベルII100%	お取引先のEMSレベルII100%	○
	環境コンプライアンス徹底 環境法にかかわるコンプライアンスを徹底する	法基準値逸脱0件	法基準値逸脱0件	○
5 環境社会貢献	環境社会貢献活動推進 環境社会貢献活動を従業員一人ひとりに展開し、年6件以上実施する	環境社会貢献活動6件以上	環境社会貢献活動34件	○
	環境コミュニケーション推進 環境情報を年1回以上開示する	環境経営報告書の発行	環境経営報告書の発行	○

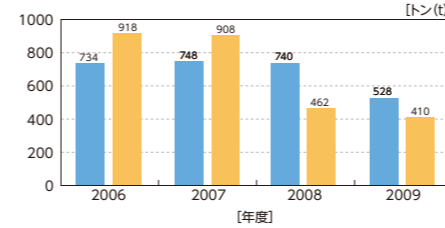
総合評価 ○:目標を十分に達成 ○:目標達成 ×:未達成

パフォーマンスの推移

過去4年間における各項目削減へ向けての当社の取り組みを開示します。 ■ 目標 ■ 実績

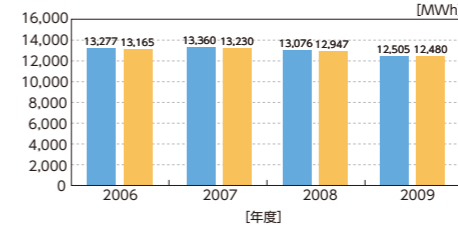
1. 廃棄物総発生量の推移

廃棄物総発生量の削減
・3Rによる有効利用化推進、ゼロエミッション継続推進、ダンボール・古紙・廃プラ・金属屑などの有価物化適用推進



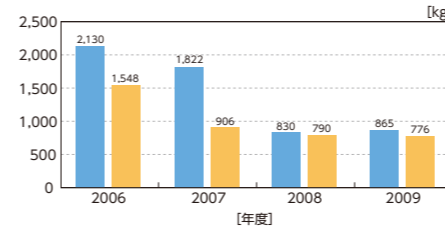
2. 電力使用量の推移

消費エネルギーの98%を占める電力使用量の削減
・2006年度から大宮SC/FJFS、2007年度からは大阪SC/関西支店を追加計上



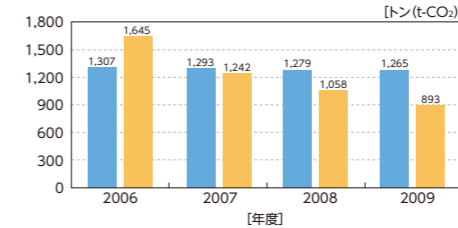
3. 化学物質排出量(VOC)の推移

化学物質排出量の削減
・代替品への切替え、保管・製造工程における揮発防止対策および適正使用量の見直し推進



4. 物流・輸送CO₂排出量の推移

物流・輸送CO₂排出量の削減
・海外工場からのドロップシッピング化、ルート便の新規設定、モーダルシフトの適用拡大、積載効率向上、梱包資材の発泡レス化推進



■環境パフォーマンスデータ(2009年度)

拠点	インプット							
	エネルギー使用量					水使用量 [t]		重点化学物質取扱い量 [kg]
	購入電力 [MWh]	灯油 [kL]	軽油 [kL]	LPG [t]	都市ガス [千m ³]	水道水	地下水	
本社・東京	3,819	—	0.1	18.9	—	15,006	—	—
新潟	6,532	3.8	0.2	12.9	4.2	18,795	31,524	1,195
大宮SC	757	—	—	—	—	—	—	—
FJFS(前橋)	1,371	—	—	—	—	5,577	—	—
合計	12,480	3.8	0.3	31.8	4.2	39,378	31,524	1,195

拠点	アウトプット									
	エネルギー消費に伴うCO ₂ 排出量 [t-CO ₂]					排水量 [t]	重点化学物質排出量 [kg]	廃棄物発生量 [t]		
	購入電力	灯油	軽油	LPG	都市ガス			マテリアルリサイクル	サーマルリサイクル	埋立処分量
本社・東京	1,554.5	—	0.3	55.6	—	15,006	—	44.9	28.2	—
新潟	2,658.6	9.6	0.5	37.9	9.9	50,319	1,140	162.8	151.2	—
大宮SC	308	—	—	—	—	—	—	8.8	—	—
FJFS(前橋)	558	—	—	—	—	5,577	—	13.7	0.0	—
合計	5,079.3	9.6	0.8	93.5	9.9	70,902.0	1,140	230.2	179.4	—

■環境パフォーマンスデータ(法規制順守状況)(2009年度)

項目	新潟工場—水質			単位: [mg/L]
	測定値	法基準値	自主管理基準値	
水素イオン濃度 (pH)	6.0～8.2	5.8～8.6	5.9～8.5	
生物化学的酸素要求量 (BOD)	0.8～3.8	60	—	
浮遊物質 (SS)	<1.0～3.2	90	72	
ほう素およびその化合物 ※1	<1.0	10	5	
ふっ素およびその化合物 ※1	<0.8	8	4	

項目	本社・東京工場—水質			単位: [mg/L] (大腸菌群数:個/cm ³)
	測定値	法基準値	自主管理基準値	
水素イオン濃度 (pH)	7.1 (18℃)	5.8～8.6	6.0～8.4	
鉛	<0.01	0.1	0.05	
PCB	<0.0005	0.003	0.0015	
大腸菌群	1000	3000	1500	
六価クロム	<0.05	0.5	0.25	

項目	新潟工場—土壌・地下水			単位: [mg/L]
	測定値	法基準値	自主管理基準値	
鉛およびその化合物	<0.001～0.013 ※2	0.01	—	
六価クロム化合物(地下水)	<0.01	0.05	0.025	
砒素およびその化合物(地下水)	0.001～0.034 ※2	0.01	—	
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	0.02	—	
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	0.04	—	
トリクロロエチレン	<0.003	0.03	0.015	

項目	本社・東京工場—土壌・地下水			単位: [mg/L]
	測定値	法基準値	自主管理基準値	
鉛およびその化合物	<0.005	0.01	0.005	
六価クロム化合物(地下水)	<0.02	0.05	0.025	
砒素およびその化合物(地下水)	0.004	0.01	0.005	
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	0.02	0.01	
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	0.04	0.02	
トリクロロエチレン	<0.002	0.03	0.025	

※1 水質汚濁防止法の特定施設で取り扱う有害物質を示す。
※2 【原因】 自然的原因(河川および食物連鎖などの影響による自然的原因)⇒【対策】自然的原因として、上位組織として行政へ報告、並びに当社HPにて情報公開しています。